

成果の説明書

(氏名)増田 正	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究</p> <ul style="list-style-type: none">・このところ、日本の地方議会の会議録を内容分析する研究を行ってきたが、研究テーマを一新し、フランス政治研究における政治とカネの問題を検討するべく、研究代表として基盤 C に応募したが採択されなかった。その代わりに、単年度の高崎経済大学研究奨励費（課題番号 9）「政治資金と選挙結果に関する理論的・実証的研究」（課題番号 9）を得たので、研究の初期計画を短縮し、研究を進めた。フランス政府の提供する政治資金データが 2023 年 9 月まで公開されなかったため、データの収集とダウンロードはそれ以降にずれ込んだ。当初の研究計画通り、次年度に論文化するべく準備を進めている。・地科研のリーダーシップ研究 PJ に参加している。コロナ禍で研究計画が大幅に変更されたが、シェアド・リーダーシップの概念に着目し、自治体・地方議会内部のリーダーシップに関する研究を進めた。 <p>② 教育</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍に停滞していた主権者教育アドバイザー業務が活発化してきたため、教育と連動させながら、主権者教育を推進した。・2023 年 12 月 21 日には、現代政治論の講義において、4 年連続で群馬県議会の事業である「議員に密着ゼミナール」を実施し、県議 3 名との質疑応答を実施した。・2024 年 2 月 27 日には、例年通り、県議会が主催する「ぐんまシチズンシップアカデミー」にゼミ生 11 名（+1 名オブザーバー）を引率・参加させ、県議と意見交換してもらった。・DX 化された学修環境を活かして、担当する全講義（演習を除く）において毎回課題を出した。また、質問・意見などを常時受け付け、授業冒頭並びに Teams の質問用チャネルを通じて回答し、双方向の授業を実現させた。これらの工夫については、次年度も継続していきたい。 <p>③ 社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none">・「主権者教育を推進する群馬県大学コンソーシアム」の本学教員窓口として、代表者会議に参加したり、申請書類の作成を行ったりしている。2024 年 2 月 19 日には、事務局の要請を受け、県庁旧昭和庁舎にて学生チームに向けて、「若者の投票率向上のためには何が必要なのか」と題する講演を行った。3 月 6 日には、ぐんま男女共同参画センターでの代表者会議に参加し、メンバー間での情報共有と意見交換を行った。新たな業務負担を嫌って積極的に関わる組織が少ないため、会議では中心的役割を求められることが多いように感じる。・9 月 24 日には、鳥取県・女性の政治参画講演会として、「女性の政治参画で政治は変わる」を鳥取県民体育館にて実施した。	
<p>2 その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none">・国際交流センター長として、国際関連業務全般の業務を管理・運営した。交換留学生の受入・派遣、一般日本事情の分担実施・成績評価、ポーランド・ブロッツワフ経済大学とのエラスムス+プログラムの実施、私費留学生に関する各種申請書の作成等、国際交流チームとともに、多岐にわたる業務をこなした。	

3 次年度以降の計画・抱負

・コロナパンデミックが終息し、国際交流分野の需要が増えている。一方で、世界的な物価高や円の価値の下落（円安）などにより、とくに送り出しを中心に国際交流は難しい局面を迎えている。大学や学会等で国際交流分野を所管する部署の責任者である立場を活かして、インバウンド、アウトバウンド両面での国際交流の活性化に向けて、研究・教育を着実に実施・推進していきたい。

・主観者教育は政治的な中立性が要請され、他組織からの協力を得難い分野ではあるが、主権者教育アドバイザーの立場から、継続してライフワーク的に関わっていきたい。